

演習科目	フィジカルアセスメント	1 身体系統別アセスメント技術 2 外来でのスクリーニング技術	30												
	総合演習	1 文献演習 2 事例展開 3 ケースレポート作成	15												
	小 計		45												
実習科目	臨地実習	1 以下の経験を含むものとする 1) レシピエントのコーディネーション 2) 生体ドナーのコーディネーション 3) 家族への援助 4) レシピエント・生体ドナー・家族間の調整 5) 移植チームの調整とマネジメント 2 スタッフへの指導・相談 3 事例検討 臨地実習期間中に経験した事例を提示し、ケースディスカッションを行い課題の抽出と検討を行う。	180												
	小 計		180												
必須科目計			630												
<table> <tbody> <tr> <td>共通科目</td> <td>105 時間</td> </tr> <tr> <td>専門基礎科目</td> <td>120 時間</td> </tr> <tr> <td>専門科目</td> <td>180 時間</td> </tr> <tr> <td>演習科目</td> <td>45 時間</td> </tr> <tr> <td>実習科目</td> <td>180 時間</td> </tr> <tr> <td><b>総時間数</b></td> <td><b>630 時間</b></td> </tr> </tbody> </table>				共通科目	105 時間	専門基礎科目	120 時間	専門科目	180 時間	演習科目	45 時間	実習科目	180 時間	<b>総時間数</b>	<b>630 時間</b>
共通科目	105 時間														
専門基礎科目	120 時間														
専門科目	180 時間														
演習科目	45 時間														
実習科目	180 時間														
<b>総時間数</b>	<b>630 時間</b>														

## 専門基礎科目

科目名：移植医療のシステム		15 時間
目標：クリニカル移植コーディネーター業務の基礎となる臓器移植と関連するシステムの制度的概要を学び、必要な知識を講義・演習により修得する。		
授業形式：講義・演習		
評価方法：試験及びレポート、討論参加度をあわせて評価する。		
	内容	時間数
臓器移植のこれまで	1) 世界における臓器移植の歴史と法律 2) 日本における臓器移植の歴史と法律	2
移植医療のシステム	1) 脳死・心停止後の移植の流れ 2) 日本臓器移植ネットワークの役割と移植登録方法（演習を含む） 3) 生体移植実施の流れ 4) 臓器移植と経済的負担	6
リスクマネジメント	1) リスクマネジメントの基本的理解 2) 医療事故の動向と対応 3) 医療事故分析の方法 4) 移植医療を安全に進めるための条件 5) 安全な移植医療の実現に向けた環境・設備・医療機器の整備	3
感染管理	1) 標準予防策と感染経路別予防策 2) 感染制御チーム（ICT）の役割 3) 術後検査 4) 感染のハイリスクに対する対策	4

科目名：移植医学		30 時間
目標：クリニカル移植コーディネーター業務の基礎となる臓器移植の医学的知識を講義により修得する。		
授業形式：講義		
評価方法：試験		
	内容	時間数
移植手術とその侵襲	1) 心臓移植・心肺同時移植 2) 肺移植 3) 肝臓移植 4) 腎臓移植 5) 膵臓・膵頭移植、膵腎同時移植 6) 小腸移植 7) 周手術期管理 8) 生体ドナーの適応と手術・術後合併症	18
移植看護に必要な基礎医学	1) 精神医学 2) 小児科学	4
移植免疫	1) 移植免疫と拒絶反応	2
感染症	1) 臓器移植後感染症 2) その他の感染症（HCV, HBV, HIV 等） 3) 抗生剤と抗ウイルス剤の使用法	6

## 専門基礎科目

30 時間

## 科目名：レシピエント・生体ドナー・家族のアセスメント

目標：レシピエントと生体ドナーの術前術後の身体的・心理社会的・スピリチュアルな側面に加え、移植医療に特徴的である拒絶反応に関するアセスメントについて学ぶ。また、生体ドナーの手術に向けた身体的・心理的状态について理解しアセスメントの方法を学ぶ。レシピエントと生体ドナーの家族内ダイナミクスと、家族が直面する不安と困難について理解する。

授業形式：講義

評価方法：レポート及び討論への参加度をあわせて評価する。

	内容	時間数
レシピエント・生体ドナーのヘルスアセスメント (身体・心理社会・スピリチュアリティ)	1) レシピエントのフィジカルアセスメント ①移植適応基準 ②手術に向けた心肺腎機能の評価 ③感染のリスク評価 ④拒絶反応の評価と免疫抑制剤の使用 2) 生体ドナーのフィジカルアセスメント ①移植後の残存機能の問題 ②手術に向けた心肺腎機能の評価 ③感染のリスク評価 3) レシピエント・生体ドナーの心理的アセスメント ①移植を待つレシピエントの不安と脳死ドナーへの感情 ②生体ドナーの心理 4) レシピエント・生体ドナーの社会的アセスメント ①社会的役割と社会復帰 5) レシピエント・生体ドナーのQOL 6) レシピエント・生体ドナーのスピリチュアリティ	24
家族のアセスメント	1) レシピエント・生体ドナーの家族がもっている情報の確認 2) 家族内の関係性(家族内力働) 3) 患者・家族の意思決定プロセス 4) 生体ドナーとなる家族の苦悩の理解	6

## 専門基礎科目

科目名：移植医療における倫理・法制度		30 時間
目標：臓器移植医療における倫理に関する理解を促すとともに、抵触する法律に関する基本的な事項について理解できる		
授業形式：講義・演習		
評価方法：レポート		
	内容	時間数
移植における法制度と 社会保障制度	1) 臓器移植と法律 (1) 臓器移植関連法の概説 (2) 臓器移植における承諾とは 2) 臓器移植と社会保障制度 (1) 医療保険制度 (2) 移植医療に対する社会的施策	8
インフォームド・コンセントと 看護師の役割	1) 看護倫理学とは 2) 倫理的課題と対応 3) 倫理的ジレンマと対応 4) アドボケーターとしての看護職 5) インフォームド・コンセントへの関わり	12
問題解決能力と資源の活用(臨床 倫理委員会の活動等)	1) 臓器移植に関連する社会的システムの理解	2
諸外国の状況	1) アジア諸国の状況(中国、韓国、フィリピン) 2) 先進諸国の動向	2
事例演習		6

科目名：移植医療における理論の活用		15 時間
目標：移植看護に活用できる各種理論を理解し、移植医療の看護場面における様々な葛藤や対応が困難な場面について、理論的根拠に基づいた実践ができる。		
授業形式：講義		
評価方法：レポート、グループワーク、授業への参加度		
	内容	時間数
実践のための理論的根拠	移植における心理学 危機理論 システム理論 ストレス理論 家族システム論 リエゾン精神看護	9
理論の活用	理論を用いて事例を分析し、看護方法を検討する。 (事例：移植医療の現場で、葛藤を生じたり、対応が困難な場面)	6

## 専門科目

## 科目名：移植コーディネーター概論

30 時間

目標：国内外における移植医療の変遷及び看護の現状を把握し、移植医療において CTCN がどのような役割を遂行すべきかを理解する。また、移植医療の移植前から移植後、フォローアップの時期の全過程において患者や家族へ質の高い看護を提供するためには、CTCN と看護職者が有機的に連携することが重要であることを学習する。

授業形式：講義、グループワーク

評価方法：レポート

	内容	時間数
移植看護の特徴と課題	1) 移植看護の変遷を踏まえ、移植医療における人々の心身ニーズの特徴と課題、及びそれらの問題解決に必要な看護、医療システム、CTCN (調整役) 2) 移植医療における看護の役割・機能の拡大 (CTCN)	8
CTCN の社会的位置づけと移植チームにおける役割	1) 移植医療に関する公的枠組みと CTCN の位置づけ 2) 移植チームの機能と構成メンバー及び移植チームにおける CTCN の役割 3) CTCN と看護職との連携の実際	6
CTCN の役割と職務	1) CTCN に必要な能力と期待される役割、教育と資格 2) 職務内容：実践、指導、相談、調整 (倫理調整を含む)	10
移植医療の社会的評価と CTCN の役割	日本における移植医療の社会的評価の検討、及び移植医療が真に人々の健康や生活の質向上に寄与できる医療として発展していく可能性の検討	2
移植医療における看護管理者の役割	組織における CTCN の位置づけと CTCN 及び移植医療に携わる看護職者に対する看護管理者の支援と役割	4

## 専門科目

科目名：臓器移植看護		60時間
目標：各臓器の移植適応疾患の病態と一般的な看護の実践について理解を深める。		
授業形式：講義		
評価方法：試験		
	内容	時間数
肝移植と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肝移植と移植適応疾患</li> <li>2. 肝移植適応疾患患者の抱える問題</li> <li>3. レシビエントの術前看護</li> <li>4. レシビエントの術後看護</li> <li>5. 生体ドナーの術前看護</li> <li>6. 生体ドナーの術後看護</li> </ol>	12
肺移植と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肺疾患と移植適応疾患</li> <li>2. 肺移植レシビエントの術前看護</li> <li>3. 肺移植レシビエントの術後看護</li> <li>4. 生体肺移植ドナーの術前看護</li> <li>5. 生体肺移植ドナーの術後看護</li> <li>6. 脳死肺移植術前後の看護</li> </ol>	12
腎移植と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腎臓疾患と移植適応疾患</li> <li>2. 腎移植レシビエントの術前看護</li> <li>3. 腎移植レシビエントの術後看護</li> <li>4. 生体腎移植ドナーの術前看護</li> <li>5. 生体腎移植ドナーの術後看護</li> <li>6. 献腎移植術前後の看護</li> </ol>	12
すい臓移植と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 膵臓移植と適応疾患</li> <li>2. 脳死すい臓移植と膵頭移植</li> <li>3. 膵臓移植術前後の看護</li> </ol>	4
心移植と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心臓疾患と移植適応疾患</li> <li>2. 待機レシビエントの術以前管理と看護</li> <li>3. 補助循環装置装着中の看護</li> <li>4. レシビエントの術後看護</li> </ol>	8
小腸移植と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小腸移植と適応疾患</li> <li>2. 小腸移植術前後の看護</li> </ol>	4
小児の移植と看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臓器移植を受けるこどもの特徴</li> <li>2. 臓器移植を受けるこどもへの看護援助</li> <li>3. 臓器移植を受けるこどもを持つ親への看護援助</li> <li>4. 継続的な医療支援等を受けるための環境支援</li> </ol>	8

## 専門科目

## 科目名：移植プロセスと調整

60 時間

## 目標：

1. 臓器移植のプロセスについて理解する。
2. レシピエント・生体ドナーの適応評価ができる。
3. レシピエント・生体ドナーおよびその家族の意思決定のための支援ができる。
4. レシピエント・生体ドナーおよびその家族に術前・術後の看護援助を展開・評価することができる。
5. 移植チームの中での役割を理解する。

授業形式：講義およびグループワークによるケーススタディ

評価方法：試験、レポート

	内容	時間数
レシピエントの適応評価の調整・支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 適応基準と除外条件</li> <li>2) 身体評価（心肺機能、免疫機能、腎機能、感染症、がんスクリーニング）</li> <li>3) 心理社会的評価、アドヒアランスとコーピング（通院・喫煙・飲酒）</li> </ol>	30
レシピエントの移植前教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診療計画、手術経過、フォローアップ外来</li> </ol>	
レシピエントの術前準備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 術前検査・処置</li> <li>2) 移植プロトコール</li> <li>3) レシピエントおよび家族の心理</li> </ol>	
レシピエントの術後ケア	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 拒絶反応</li> <li>2) 感染症と感染管理</li> <li>3) アドヒアランスとコーピング</li> <li>4) 長期ケア（通院・妊娠出産・社会活動等）</li> </ol>	
生体ドナーの適応評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体評価（残存機能・心肺機能評価）</li> <li>2) 心理社会的評価</li> </ol>	20
生体ドナーの術前準備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 術前検査・処置</li> <li>2) 移植プロトコール</li> </ol>	
生体ドナーの術後ケア	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 術後リハビリテーション</li> </ol>	
円滑な移植手術への調整・支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 移植チームメンバーの連携と調整</li> <li>2) 社会資源の活用</li> </ol>	10
記録管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臓器移植に関わる法的書類</li> <li>2) 情報の共有と個人情報保護</li> </ol>	

## 専門科目

科目名：意思決定支援の方法		15 時間
目標：脳死及び生体ドナー、レシピエント及びその家族の意思決定をどのように支援していくかについて、事例演習を行う		
授業形式：講義・演習		
評価方法：課題提出、レポート		
	内容	時間数
意思決定支援の方法	1) 脳死ドナー (1) 移植までのプロセス (2) レシピエント・家族に対する意思決定のプロセス (3) 家族の諸問題と支援 2) 生体ドナー (1) 移植までのプロセス (2) ドナー評価について (3) ドナー・家族に対する意思決定のプロセス (4) 家族の諸問題と支援 3) 調整・連携の取り方 (1) 紹介元（主治医） (2) 移植外科医・内科医 (3) 精神科医 (4) 入院病棟スタッフ (5) 他医療スタッフ（薬剤師、MSW、理学・作業療法士等）	15

科目名：移植における患者教育と相談		15 時間
目標：効果的な患者・家族への教育ならびに移植チームからの相談に対応するために必要となる理論や専門知識の習得により、クリニカル移植コーディネーター業務において必要な教育・相談の能力を養成する。		
授業形式：講義・演習		
評価方法：試験		
	内容	時間数
教育の理論と方法	1) 移植医療における教育・相談とその対象（社会啓発を含む） 2) 行動変容に関わる理論、教育方法論（教材作成）	4
レシピエント	1) 術前：移植に必要なとなる情報提供 2) 術後：服薬とアドヒアランス、日常生活と感染予防、健康管理	5
生体ドナー	1) 術前：移植に必要なとなる情報提供とその方法 2) 術後：健康管理の方法、レシピエントとの関わり方	3
家族	1) 家族のレシピエント及びドナーとの関わり方 2) 家族へのグリーフケア	1
移植チーム	1) 移植チームからの相談への対応と指導	2



## 演習科目

科目名： フィジカルアセスメント		30 時間
目標：解剖・生理を踏まえた身体のフィジカルアセスメント技術と心理社会的なアセスメントが統合され、ホリスティックに対象者を理解できる。		
授業形式：講義・演習		
評価方法：試験		
	内容	時間数
身体系統別アセスメント技術	1) 循環器系 2) 呼吸器系 3) 消化器系 4) 脳神経系 5) 筋・骨格系 6) 乳房・生殖器系 7) 泌尿器系 8) 頭部、眼部、耳鼻咽頭部 (HEENT) 9) 小児のアセスメント	24
外来でのスクリーニング技術	ミニマム・エッセンス	6

科目名： 総合演習		15 時間
目標：文献検討から、臓器移植におけるコーディネーション・看護について科学的・理論的に検討できる能力を養う。もって自ら行ったケアの質についてエビデンスの視点から再考できる。		
授業形式：演習		
評価方法：レポート		
	内容	時間数
文献演習	文献学習・査読を通して、病態・疾患・看護を分析し、看護を科学的・理論的に実践できる基礎を養う。	10
事例展開	事例を通して科学的・論理的な看護を展開する。	2
ケースレポート作成	臨地実習期間に経験した事例 1 例について、論文形式にまとめ発表する	3

## 実習科目

科目名： 臨地実習		180時間
<p>目標：これまでの学習成果を踏まえ、実際の移植コーディネーターの役割と活動を実践を通して学び、事例の展開を通して現状の課題や自らの実践能力を振り返り、水準の高い実践・調整、指導、相談という認定看護師として必要な能力を身につける。</p>		
<p>授業形式： 実習</p>		
<p>評価方法：実習への参加・取り組み、レポート等から総合的に評価する</p>		
	内容	時間数
コーディネーション・看護の実践	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 レシピエントのコーディネーション</li> <li>2 生体ドナーのコーディネーション</li> <li>3 家族への援助</li> <li>4 レシピエント・生体ドナー・家族間の調整</li> <li>5 移植チームの調整とマネジメント</li> </ol>	180
スタッフへの指導・相談	看護職および移植チームメンバーへの指導・相談	
事例検討	<p>臨地実習期間中に対応した複数の事例の中から1事例を提示し、ケースディスカッションを行い課題の抽出と検討を行う。</p> <p>(移植施設) 月に最低1、2件の臓器移植が実施され、専任の臨床移植コーディネーターが配置されていることが望ましい。 生体及び脳死移植の双方に関与できる施設であることが望ましいが、研修生の希望等を考慮し、いずれかであっても差し支えない。</p>	